

【消費生活用製品安全法に基づくトヨタミからの報告】

■重大製品事故一覧

■重大製品事故一覧					更新日	2022年3月17日 (令和4年)	
管理番号	事故発生日	製品名	機種・型式	事故概要	公表日	被害状況	発生場所 〇〇県
A201300716	2014年1月10日 (平成26年)	石油ストーブ(開放式)	LCR-304(N)	当該製品を使用中、当該製品を焼損する火災が発生した。当該製品の電源トランスの巻線に断線と溶融痕が認められたことから、電源トランスが過熱により発火し、配線被覆等の周辺可燃物に引火して出火したものと推定される。	2014年1月24日 (平成26年)	火災	香川県
A201300750	2014年1月19日 (平成26年)	石油ストーブ(開放式)	LC-S32D	当該製品を使用中、建物を全焼する火災が発生した。当該製品の内部に異常燃焼の痕跡は認められないが、一部の電気部品が確認できず、製品起因であるか否かも含め、原因の特定には至らなかった。	2014年2月4日 (平成26年)	火災	鹿児島県
A201300842	2014年2月26日 (平成26年)	石油ふろがま	AF-205	当該製品を使用中、燃焼音が聞こえなくなったため確認すると、当該製品を焼損する火災が発生していた。製造から10年以上経過した製品。当該製品の燃焼用送風機のファンが長期(約15年)使用により破損したため、燃焼用空気が不足し異常燃焼が発生、その際に煙突内に風圧がかかり、送風機側に炎が逆流したため、出火したものと推定される。	2014年3月7日 (平成26年)	火災	北海道
A201300891	2014年3月4日 (平成26年)	石油ストーブ(密閉式)	FFA-502(L)	斎場で当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。当該製品の燃焼室下方の風洞へ灯油が垂れて燃えた痕跡が認められたことから、燃焼室から溢れた灯油に引火し当該製品内部から出火したものと推定されるが、定油面器等の送油経路に異常が認められず、出火の原因の特定には至らなかった。	2014年3月20日 (平成26年)	火災	北海道